

第11回高石市子ども・子育て会議概要

■日 時 : 令和6年1月23日(火) 午前10時 ~ 午前11時30分

■場 所 : 高石市役所本館2階 202

■出席者

[委 員]

畠中会長、中西副会長、清水委員、太田委員、土師委員、森本委員、中川委員、澤委員、山崎委員、隈元委員、村井委員、村上委員、久家委員

[事務局]

村田教育部長、家村こども未来室長、佐藤教育部次長兼社会教育課長、北野保健福祉部次長兼高齢・障がい福祉課長、吉村こども家庭課長、綾井教育総務課長、山崎学校教育課長、阪上子育て支援課長、乾地域包括ケア推進課長、上田こども家庭課長代理、宮城こども家庭課係長

■会議次第

1. 市長挨拶・諮問
2. 委員、事務局の紹介
3. 会長の挨拶
4. 案 件

(1) 高石市子ども・子育て支援事業計画について

(2) 第2期高石市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

(3) 第3期高石市子ども・子育て支援事業計画の策定について
ニーズ調査のご報告について

(4) その他

■配布資料

資料 1	次第
資料 2	高石市子ども・子育て会議条例
資料 3	高石市子ども・子育て会議委員名簿
資料 4	高石市子ども・子育て会議傍聴要綱
資料 5	高石市子ども・子育て支援事業計画について
資料 6	高石市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について
資料 7	施策報告について
資料 8	第 3 期高石市子ども・子育て支援事業計画の策定について
資料別紙	ニーズ調査票（未就学児童用・小学生用）
資料別紙	第 2 期高石市子ども・子育て支援事業計画（令和 2 年 3 月）冊子
資料別紙	令和 4 年度高石市子ども・子育て会議資料（中間見直し）

■会議概要

1. 市長挨拶・諮問

市長より畠中会長へ諮問書の交付

2. 委員、事務局の紹介

3. 会長の挨拶

高石市子ども・子育て会議条例第 6 条第 2 項の規定による半数以上の出席の確認

畠中会長：次に、会議の傍聴につきましてお諮りいたします。

本日、会議の傍聴希望者は何名いらっしゃいますか。

事務局：0 です。

畠中会長：傍聴要綱第 2 条の規定により、会議は原則公開となります。ただし、会議の議長が会議に諮って公開しないと決定した時はその限りではない、という条項です。今日は 0 ということですので、お諮りする必要はないと思います。これで進めさせていただきます。

それでは早速、議事に入らせていただきます。本日は、高石市子ども・子育て会議にお集まりいただき、ありがとうございます。本日の会議は、第 3 期高石市子ども・子育て支援事業計画にあたって、現在の進捗状況そして 2 月に行うニーズ調査について、が主な議題となっております。会議は、1 時間半程度を予定しています。

4. 案件

（1）高石市子ども・子育て支援事業計画について・・・資料 5 に基づき、事務局説明（略）

畠中会長：事務局からご説明がありましたけれども、目を通してもらえたことを前提にご質問ご意見がありましたら率直に出していただければと思います。いかがでしょうか。大丈夫でしょうか。

今の事務局の説明は了解したということで、よろしいですね。

(2) 第2期高石市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について・・・資料6、資料7に基づき、事務局説明（略）

畠中会長：第2期の支援事業計画の進捗状況について、説明をいただきました。人口動態については、0歳から11歳の児童人口が減っている、特に0歳児の人口が394、予測より大幅な減少となっています。これをどう受け止めるかです。計画を立てても実際がついていけないという現実が、高石市にあるということではないかと思います。

事業の中身について、皆様に送られたデータと本日配布のものに齟齬があるという説明がありました。今日紹介されたのは、14の施策についてです。何か気になることとかもしありましたら、どうぞおっしゃっていただければと思います。いかがでしょうか。

委員：一つ質問をさせていただけたらと思います。29ページの病児保育について。これは恐らく、21ページの病児・病後児保育事業に対応するものと思いますが、21ページではかなり数が減っています。このあたりはどのように考えておられるのでしょうか。

事務局：病児保育事業についてですが、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、利用件数は令和2年、3年、4年とかなり減少しております。先ほども申し上げましたが、令和5年度におきましては徐々に回復してきているとのことでございまして、利用件数も少しずつ増えてきている状況になっております。

畠中会長：我々が計画で予測を立てたのですが、コロナの影響が大きかったのではないかと。それは予測の中には盛り込めないもので、そういう問題もあったのではないかと思います。増えている事業に関しては、影響はないということです。そのあたりの関連性は難しいところです。

他にございますか。

委員：先ほどの病児保育についてですが、施設型と訪問型とあるとお聞きしました。訪問型のほうは数が少なく、今後続けることが難しいとお聞きしています。現状と次年度がどうなっているのか、お聞きしたいと思います。

事務局：病児保育の訪問型ですが、確かにスタッフがなかなかいないというところで、そういった話は出ているのですが、今後につきましては現在協議中になっています。来年度については、今後引き続き協議していくことになるかと考えています。

畠中会長：よろしいですか。

委員：はい。

畠中会長：他にございますか。大丈夫でしょうか。

それでは、案件の(3)に移らせていただいてもよろしいですか。

(3) 第3期高石市子ども・子育て支援事業計画の策定について、ニーズ調査のご報告について・・・資料8、資料別紙に基づき、事務局説明（略）

畠中会長：第3期の策定にあたって、また新たにニーズ調査をするということです。調査票も事前に配布されていますよね。回収数が気になるころではありますけれども、全国一律でこれだけの調査をするわけですし、市の独自のものが未就学で3項目、就学児で2項目追加されています。もちろん、付加することは市の独自性を出すために重要だと思います。回収率を上げる努力をしないと、せっかくの調査がどうか、という感じがします。いろいろなご意見があると思われますし、これが欠落している等のご意見とか、あまり増やすことは考えたくありませんので、大事なことであれば差し替えることも検討できるでしょうし。お気づきの点がありましたら、ご意見を出していただけると助かります。

委員：ニーズ調査の話じゃなくても良いですか。

畠中会長：はい。

委員：第2期の策定の時にも話したと思いますが、人口減少していく中で色々と考えていくことが前提になっています。確かに全国的には人口減少しているのですが、例えば明石市は独り勝ちでどんどん増えています。周りの市から移住してきています。あそこは子育てにものすごく力を入れて、特に個性的な市長だからだと思うのですが。冒頭、市長が人口減少に歯止めをかけてという話もしていましたが、第3期を作る時に減少することはある程度仕方がないというか、行政として高石市がもっと魅力があり、子育てする家庭、ニューファミリーが高石市に入りたいという施策を何か作っていけないのかという気がしています。例えば、こども医療でも月2回に限って500円ではなく無料にするとか、年度末に公共工事で不要なところまでやっている予算をこっちに持ってくるとか、大きな話になると思いますが、何か高石市に若い家族の方々に来ていただけるような仕掛けづくりとか、これはこれでやりながらですが動かしてくれないかという期待をしています。今のままだと高齢者が増えていき、高石市は昔の良かった時代からどんどん変わっているような気がします。そういう中で、こども未来室が地道にやっていくことはやっていけば良いが、市として全体予算の中で歯止めをかける活動はこうするんだとか、若い家庭の方々が高石市に住んでいて良かったというような補助制度、子どもの教育費もここまで無料にする等、もっともっと考えていくことができるのではないかと市民としては思っています。第3期を作る全体の中で、行政として何か別立てで考えていただきたいというのが私の独り言です。

畠中会長：皆さんのご意見を代弁していただいたのではないかと思います。本気で今の状況を何とかしたいという思いであれば、何か変えないといけないと思います。こういことをして現状に甘んじるだけでは、少し厳しいと思います。仕掛けづくりの為のアイデアについて、行政だけで無理であればお母さん方にきちんと聞くとか。我々子育てをやってきた世代からみると、子育てがしんどいのが当たり前ではなく、楽しくやれるというメッセージが出せるような仕組みづくりは、絶対必要だと思います。個人的な思いですが。こうしたら変えられるのではないかとか、アイデアがもしあれば出していた

できればと思います。

事務局：ご意見ありがとうございます。この4月に市の組織の機構改革がございます。先ほど各課から事業の説明をさせていただきましたが、そのうちの地域包括ケア推進課で母子保健事業が今回こども未来室になり、こども関係が一体化して機能するようという取組を進めていきます。また、これはまだ予算が確定とは言いにくいですが、中学校給食は無償化の継続を進めていく方向です。あと、機構改革の中で先ほどご紹介いただいた明石市まではいかないかもしれませんが、ブランド戦略といいますか、市のアピールを強化する課を作る予定と聞いています。この4月に市長も変わりましたので、畑中カラーを出している中で、見込みとしては子どもや人口が減っていくのですが、少しでも落ち具合が回復、場合によっては増えていくイメージをしていかないと、何の魅力もない町になってしまう可能性も高いですから。何とかPRできるような、高石市に住みたいと思ってもらえるような町にしていきたいという思いはあります。

委員：細かい具体論はこれで良いと思うのですが、そういうことがないと、なかなかこの話は落ち込んでいかないと思います。逆の話になってしまっただけで申し訳ないのですが、そのあたりは市として考えてもらいながら、その中でこの新しい施策に落とし込むものがあると、もっと皆さんわかりやすいと思います。

畠中会長：そういう市のメッセージがあれば、回収率も上がると思います。

全国統一のフォームがあるようなのでそこは触れないですが、市独自の項目はこれです。よろしいですか。ご意見があれば。

委員：ニーズ調査票は実際私も今まで記入させてもらってきて、気になるところがあります。最後のご自由にご記入くださいの欄ですが、すごく書きにくかったです。せっかくここまで余白があるので、もう少し広げてもらったり、横線がすごく小さくて修正もきかない感じがあったりしたので、もう少し大きいスペースを作ってもらえると何か書こうと思い、保護者の生の声をもっとわかるのではないかと。今回同じ大きさだったので、ご検討いただけたらと思います。

畠中会長：別にページが増えるわけではないですから。

委員：広いスペースがあると、何か書こうかなと思います。

委員：先ほど会長もおっしゃいましたが、回収率について。小学校は学校経由ですからかなり回収率が期待できると思います。就学前は、ウェブ調査の予定はないのですか。紙だけですか。

事務局：今回ウェブ回答についても検討はしたのですが、金額的なこともあり予算内に収めることを考えると難しいということになり、紙での調査回収とさせていただきます。

委員：では、何度も繰り返し啓発みたいな感じでしていただかないと。ウェブ回答だったら、回答の途中で止めても続きからまた回答できます。そうするとやりやすいと思います。

それと、国のこども大綱が出るのが遅くなり年末になりましたが、そこで生活満足度

の調査実施が入っていたと思います。それは、どこに該当しますか。ざっと見ていたのですが、それらしいところが見当たらず。例えば他市だと「あなたは今幸せだと思いますか」とか、「あなたは最近の生活にどれくらい満足していますか」1～10で書いてもらうとか、そういうものを、こども大綱を受けて入れています。それに代わるものがあれば良いのですが、見た感じはなかったのです。調査開始まであまり時間がないのですが、そのあたりが一点。

それと、ニーズ調査ですので利用状況については丁寧にされていると思います。例えば回答しやすさの点からいうと、就学前の17ページ問33です。地域子育て支援拠点事業については単独でその上のところで質問されているのですが、問33で子育て支援サービスの認知度・利用度について質問しています。例えば、選択肢の6番の「産後ケア事業」や9番「伴走型相談支援」、「病児保育」等が選択肢に入っていません。ニーズ調査を通して、こんながあると知る機会にもなるので、もう少し具体的に設定すると選びやすいですね。

それから、34番の問について。「どのような子育て支援サービスを充実してほしいですか」の中の選択肢に、今時なので例えばインターネットやSNS、メール、子育て関係のアプリ等は必ず入れるべきだと思います。

あと、11番には専業主婦対象のものがありますが、「土日でも相談できる機関」も入っているのも良いのではないかと思います。

先ほど申し上げた満足度調査に強いてあたるとしたら43だと思いますが、これはあくまで経済状況なのでやはり少し違うと思います。

同様のことが就学児童用にも。例えば、選択肢にSNSやインターネット関係が入っていない。それと、ひとり親家庭への支援サービスも入っていない。選択肢は具体的にあったほうが良いと思います。

事務局：貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。こども大綱は年末に出たので、このニーズ調査はそれまでに国から示されたもので作成をしていたものでございます。こども大綱に沿って作るものは、また別の計画になっております。今回の子ども・子育て支援事業計画は、また別で国が示す調査項目があり、府からも要請があった設問を付けています。先ほどの生活満足度に一番近いのが、やはり経済状況になると考えているのですが、国と府が全国的に調査する項目で定めたものになっておりますので、そこにあまり負担がないように削除可能な設問は全て除き、少しだけ市独自の設問を入れています。申し訳ございません。ご了承ください。いただいたご意見で修正等ができるような項目があれば、そこは対応させていただきたいと思っています。

畠中会長：大綱が決まっていて、それを全国一律でやっていくことが前提です。だから、我々が勝手に変えてしまうと不具合が出てくるかもしれません。現場に近いところと、そうでないところでやっている違いがあります。

委員：問33は充実を図りましたとおっしゃっていたので、それは入れれば良いのでは

ないかということと、支援サービスでインターネット系が入っていないのだけは、さすがに1項目入れると良いと思います。

畠中会長：対応できるところは検討してくださいということです。

事務局：対応できるところは検討させていただきたいと思います。

畠中会長：他にございますか。最初のご意見のスペースを大きくすれば書きやすいのではないかと、というところは是非実現してあげてください。

他にございませんか。では、今のものに修正を部分的に加えていただいて、大筋では国が作ったものですから変えられないですが、独自の項目が高石市の独自性ということです。そういうことでよろしいですか。

それでは、案件（４）に移ってもよろしいですか。

（４）その他・・・今後のスケジュールについて、事務局説明（略）

畠中会長：以上ですか。何かまだ意見を述べたい方はいらっしゃいますか。

委員：質問でよろしいですか。

畠中会長：はい。

委員：総体的な質問になるとは思いますが。これは基本子育てに限った形で調査を進めておられると思いますが、例えば子どもを持っていない若い方、今後子どもを持とう、もしくは結婚しようと思われている方々のジェネレーションに対する調査等は、高石市として何かやっているものはあるのですか。

事務局：今回のニーズ調査は、あくまで子ども・子育てをしていらっしゃる保護者にお尋ねするものになっておりますので、そういった対象者は入っていません。他でそのようなニーズ調査をしているかどうか、こちらで把握できておりません。申し訳ありません。

委員：子育てする家庭は、ある程度枠組みみたいなものが規定されていると思います。聞く内容もある程度ルールをたくさん作って、どのルールを選びますかというような形になってくると思います。子育てしている方ではなくて、今後子どもを持とうとか結婚しようかどうかどうしようかという方のニーズが、何らか一定諮れるようなものがあればと思いました。それが、将来的に子育て支援の施策に案として使えるものがあるのではないかと気がしています。あまりそういう調査はされていないことが多いです。小さい町ですので、そういったきめ細やかさも含めてやっていくと良いと思いました。

それと先ほどもおっしゃっていましたが、原則スマホで完結させることがこれからは前提だと思います。もちろん、高齢者の方がいらっしゃると思いますが、子育てに関しては基本的にスマホを使えない人はほぼいない。個別の案件で対応するにしても、スマホで完結する行政は全体的な流れとしては必要だろうと思います。なおかつ、利便性の意味も。何せ忙しいのが前提なので、紙に向かって鉛筆で書かないというのが正直な気持ちだったりすると思います。調査のデータそのものが変化してくる可能性もあるの

ではないかと思います。そのあたりは、是非できるだけ近い将来にそういった形でやっていただけると。我々子育て支援に関わる人間も、できれば紙の資料は増やしたくないのが正直な気持ちなので。できるだけそのような方向を見据えてもらえると、今後とてもやりやすくなるのではないかと思います。

畠中会長：重要なお指摘だと思います。どうしても地方行政になると、国が決めたものを一律実施していく、それだけでも大変な作業なのですが、今おっしゃったことは市独自のブランディングでやって、そういうところで関心を持ってこういうこともしているということが市民に見えてくれば、もっと変わっていく。ただ上からのトップダウンだけの作業だけでなく、汗をかくことで世の中が変わってくるように私は思います。予算がかかる等の大きな問題があるかもしれませんが、将来のことを考えると、今子どもを持ちたくないという方々が社会の方向性を決めていく可能性もありますので。

他にございますか。それでは、本日の会議はこれで終了させていただきます。委員の皆様におかれましては、進行にご協力をいただきまして誠にありがとうございました。